

2012年度草の根・人間の安全保障無償資金協力：モニタリング

平成22年度案件「モシコ州カムザンギッサ村帰還民農業生産支援計画」終了

実施団体：カルクタ・マドレ・テレザ財団（FMTC）

供与額：105,580米ドル

6月、モシコ州ルエナ市カムザンギッサ村において、名井大使及びモシコ州アドリアーナ・ベント副知事参加のもと、農協グループによる農業生産訓練と倉庫の改築支援計画の終了式が開催されました。アンゴラ東部のこの地域には現在、内戦によりザンビアやコンゴ民主共和国に避難していた多くの避難民が帰還・再定住しています（世帯主の多くは女性）。零細農家として生活する帰還民を対象に、植民地時代の倉庫を穀物保管倉庫として改築し、持続性のある農業生産活動により経済的自立のための支援を実施しました。雨季と乾季の水の調整には依然課題は残るものの、本プロジェクトにより結成された農協グループは今後も生産量向上に励みたいとのことでした。



修復された穀物倉庫に掲げられた日本とアンゴラの旗



倉庫内部には収穫したトウモロコシを保管しています。

平成22年度案件「ウイラ州ルバンゴ市小学校増築計画」終了

実施団体：ウイラ州教育科学技術局

供与額：103,000米ドル

児童数の増加が著しいウイラ州ルバンゴ市にある州立チアメナ小学校（2教室）に、3教室を増築し、3月に完成式が行われました。これまで屋外教室で授業を受けざるをえなかった子どもたちも屋内で授業を受けることができるようになりました。この小学校では約350



名の児童が勉強に励んでいます。

平成22年度案件「ビエ州アンドューロ市井戸建設計画」終了

実施団体：ピープル・イン・ニード（PIN）

供与額：97,099米ドル

7月、ビエ州アンドューロ市井戸建設計画の終了モニタリングを行いました。市内の5つの地域にハンドポンプ式の井戸を建設しました。本案件により、住民が安全かつ衛生的な水へのアクセスを容易にすることで、病気・感染症の改善にも大きく貢献しています。また、井戸のメンテナンスは自治体と住民が修理を行えるよう研修を行い、合わせて衛生教育のワークショップも行いました。NGO・自治体・コミュニティの連携が非常によくとれた案件となりました。



平成23年度「ベンゲラ州バロンボ市小学校3教室建設計画」終了

実施団体：コミュニティ開発支援組織

（AADC）

供与額：112,210米ドル

約350人の児童と教員の教育・職場環境を改善するために、ベンゲラ州バロンボ市カンバンジョ村に小学校3教室を建設しました。本案件では、バロンボ市自治体の協力により学校備品整備を行いました。



平成23年度「ベンゲラ州サント・アントニオ小学校修復整備計画」終了

実施団体：保健教育生活改善農村インフラ整備団体（SERVIR）

供与額：103,220米ドル

名井大使、ベンゲラ州政府教育局長及びベンゲラ市教育局長参加のもと、11月にベンゲラ州サント・アントニオ小学校修復整備計画の校舎引渡し式を開催しました。本案件では、ベンゲラ市中心部にあるサント・アントニオ小学校の10教室、男女トイレ、職員室の修復と備品整備を行い、児童1,120名の教育環境、及び教職員の労働環境を改善に貢献します。



新しい校舎



椅子と机が整備されました

平成22年度案件「ルアンダ州ヴィアナ市ザンゴ地区医療システム整備計画」終了

実施団体：人々による人々のための開発援助団体（ADPP）

供与額：106,370米ドル

ルアンダ州ヴィアナ市ザンゴⅡ地区にある職業訓練専門学校敷地内に、コミュニティーマルチセンターを建設し、12月、その終了式が行われました。ザンゴ地区は、ルアンダ州の中でも生活水準が低く、住民の多くはインフォーマルな仕事で生計をたてていると言われています。会計やITを学ぶ既存の専門学校に、公衆衛生のプライマリー・ヘルスワーカーを養成するコースを開設し、マラリアや感染症予防、衛生保健に関するキャンペーンやワークショップを行うことで、より地域住民に密着した活動を行っています。将来的には、この施設で学んだ若者が、保健機関のヘルスワーカーとして働くことが期待されています。



平成20年度案件「ビエ州アンドゥーロ市帰還難民及び避難民のための農業生産支援計画」完了2年後フォローアップ

実施団体：サミュエル・ブレース・コールス（ASBC）

供与額：85,605米ドル

ビエ州アンドゥーロ市において、帰還民及び避難民を主たる対象として、農業生産訓練、共同穀物・種子倉庫建設及び農業用具の整備を行いました。農業技術の習得と種子の保管、穀物倉庫を利用した貯蓄・販売方法を習得することにより、所得創出を促進することを目的とした案件です。今回のモニタリング訪問では、村人のモチベーションも高く、厳しい環境であるにもかかわらず、研修で学んだ技術を活用しながら（小さな苗木に藁を敷き、低温や動物から守る等）生産向上に励んでいる様子を確認できました。



農地へ続く道の目印代わりの看板



とうもろこし、かぼちゃ、トマト、じゃがいも、キャベツ、にんじん、ピーマン畑。果樹も育てられています。

平成23年度「ナミベ州ナミベ市零細漁業組合支援計画」終了

実施団体：新興国の開発支援団体（COSPE）

供与額：112,020米ドル

2013年3月、ナミベ州ナミベ市内において、「ナミベ州ナミベ市零細漁業組合支援計画」終了式が行われ、プロジェクトが完了しました。本件は、ナミベ市の零細漁業組合に対し、漁獲・加工・保存・販売にかかる研修及び実地訓練を行い、それぞれの組合の活性化を図り、800の漁民世帯の生活改善支援を行いました。今後は、ナミベ州漁業組合が中心となり、漁船の備品整備やメンテナンス、また衛生を考慮した魚販売・加工を行い、地元漁業生産活動の発展のために活動を続けていきます。



魚の日干し加工